

1. 幼児の遊びや生活を豊かにする保育教材としての ICT の可能性

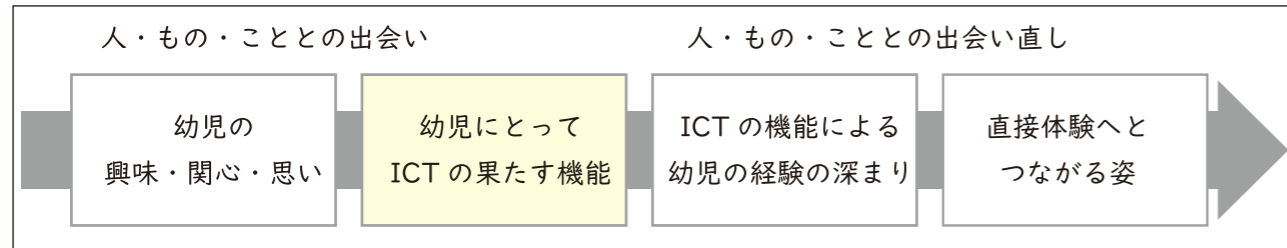


表1 幼児にとって ICT が果たす機能

ICT の機能分類	より細かな機能分類	機能の説明
◇遠くにあるものを身近にする	見えないものをみる	<ul style="list-style-type: none"> 肉眼では見えないもの（小さい物、目が届かないもの、遠方にあるもの、動きのあるもの）をみる 目には見えないもの（場所を超えた出来事、時間を超えた出来事、時間的変化、自分達の姿など）をみる
	詳しく見る	<ul style="list-style-type: none"> 音や声、動きなどを伴う図鑑的信息（専門的知識・本物）を得る
◇現物化する	つくり出す	<ul style="list-style-type: none"> 機器を操作して、ものの動きをつくり出す 設計する、形にする、など
	表現する	<ul style="list-style-type: none"> 映像、造形、音楽、動画作成、中継など
◇やりとりする（コミュニケーション）		<ul style="list-style-type: none"> 時間・場所を超えて人と交流する

本研究で収集した事例では、教師が、幼児の姿から、幼児の興味・関心や思いを見取り、それに即した教師の意図やねがいを込めて、上記のような ICT の機能を活用していた。幼児の ICT 使用に着目したところ、幼児にとっての ICT の機能は、「遠くにあるものを身近にする」機能、自分のもっているイメージなどを「現物化する」機能、遠くにいる人と「やりとりする（コミュニケーション）」機能に大別できた。これらの ICT の機能を通して、幼児は、身の回りにある具体的な人・もの・ことにもう一度出会い直すことで、幼児の経験が深まると考えられる。身の回りにある具体的な人・もの・こととの出会いが先にあること、そこに ICT の機能を介して情報に触れる機会があり、情報と具体的な人・もの・ことを往復するとき、幼児にとっての ICT の機能が発揮されたということになるのではないだろうか。

幼児の遊びや生活を豊かにする、幼児にとっての ICT 機能の活用について、本園の見出した 2 つの視点から子どもの姿を通して述べる。

（1）ICT の機能そのもので遊ぶ

幼児が自分の思いを実現するための道具・材料として教材を扱えるようになるには、その教材の機能を体感的に知っておく必要がある。そのためには、その教材がどんなものであるのかを、幼児自身が試すことも重要であろう。紙や空き箱、絵具などの材料、ハサミなどの道具も然りである。ICT を保育教材として考えると、ICT も同様であるが、ICT の活用にあたっては、様々な工夫や配慮が必要である。そして、何よりその機能を教師自身が知っておく必要がある。幼児がどのように活用し遊ぶかを予想し、遊びが広がるようその他の教材も取り入れた環境をつくり出す必要がある。

例えば、事例 6（三重大学教育学部附属幼稚園提供）では、絵本を見たことをきっかけに影絵に興味をもった幼児の姿から、教師は、書画カメラとプロジェクターをつなぎ、スクリーンに映し出せるように保育の中に ICT を取り入れた。そのことで、幼児は、カラーセロファンをかざし「うわー赤が映った！」「今度は緑色」と、色に驚き繰り返し試す。また、手で形をつくったり、ままごと道具や好きな形に切った画用紙など、いろいろなものを映し出すなど形の面白さを感じたり、距離によって映るものの大きさが変わることを試したりする姿も見られるなど、プロジェクターの光と戯れること自体が遊びになっている。このように機能を試す経験があったことで、その後の劇遊びで ICT を活用して化け合戦の場面をつくるという、共通のめあてをもって工夫する姿につながっていった。これは、ICT の機能そのもので遊ぶ経験の積み重ねにより、思いを実現する道具として ICT を活用する姿であると言える。

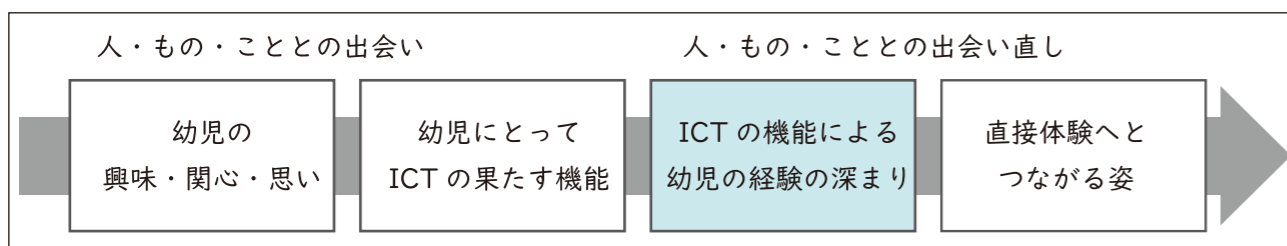


（2）ICT の機能を活かした遊びの展開

（1）で述べたように、幼児が自分の思いを実現する道具として ICT を活用するためには、ICT を道具として試しながら、その機能を体感的に知っていく過程が必要となる。そしてその過程を経て、例えば、事例 11（茨城大学教育学部附属幼稚園提供）では、これまでの経験から、ICT の機能を知っていることで、「試合をその場で大きくして見てみたい」「モニターでライブ配信は？」などと ICT を使った具体的な遊びのアイデアが幼児から出てきて、遊びが広がっていった。また、幼児が自分たちでタブレット端末を操作して撮影することで遊びがより主体的になり、カメラマンやインタビュアーなど役割分担をしてテレビ局ごっこ遊びを進めていき、他の遊びを取材するという新しい遊びに発展していった。今後、更に、様々な ICT に触れて遊んでいく中で、機能を活かした遊びの展開の可能性が感じられる。教師は、幼児の柔軟な姿勢や遊びのアイデアを温かく受け止め、幼児の思いが実現したり、より遊びが楽しくなっていくように援助していく必要がある。

2. ICTの活用は幼児の経験をどのように豊かにするのか

幼児が思いをもち、その実現のために活用した ICT には、前項で見た通りの機能が果たされていることがわかった。それらの機能が、幼児の興味・関心や思いに応じた形で発揮されると、幼児の経験が深まると考えられる。図4のプロセスのうち、「ICTの機能による幼児の経験の深まり」の部分である。事例分析を通して、この経験の深まりを、「心が動く」、「認識する」、「想像する」、「構築する」という項目で説明する。



(1) 心が動く

事例の「ICTを活用することで見られた幼児の経験」を分析したところ、幼児の変化として、第一に、幼児がICTを使うことで、驚いたり、「不思議」「すごい」「面白い」と感じたり、謎が深まったり、心配してどうにかしたいと思ったりする様子があった。例えば、事例12（京都教育大学附属幼稚園）では、カメの卵にモヤモヤとしたものを見て心配した幼児が、遠方にある専門家「カメ先生」とオンラインでつながり、「カメ先生」が幼児に共感的な言葉を伝えることで、カメへの思いが届き、幼児の心に響くという様子があった。幼児に対して温かく語りかける「カメ先生」の言葉は、カメという生き物への情報が、「温度のある情報」として幼児に届き、カメへの関心や愛着をさらに深めていった。このように、図鑑のような事実を伝える情報だけではなく、専門家による生き物への思いや幼児たちへの温かなまなざしとともに情報が伝わることで、幼児が「さらに知りたい」と好奇心をかき立てられたり、生き物への親しみをもったりするといった、心が動くことにつながっていく。ICTは知りたい情報を得るだけでなく、幼児の心をより豊かに揺さぶることに活用しうると言える。



(2) 認識する

第二に、より詳しく見ることで理解が進んだり、新たな見方・考え方を得たりするということが挙げられる。普段見ているものが、ICTを通すと、肉眼で見るとは違って見えることがある。例えば事例1（島根大学附属幼稚園提供）のように、好きな生き物について、もともと情報として知っていること（脚が〇本、など）を、拡大して見ることで事実であることがわかり、感動と共により確かな情報として理解が深まることある。このように、ICTを活用することで、「こう見えていたはずなのに」といった認識（見え方）が変わったり、より認識が深まったりすることがわかった。あるいは、インターネットで得た情報を実体験で試してみても、その情報が正しいかどうかを確かめるような姿もこれにあたるだろう。今、ここにいる世界での見え方や対象の認識が、ICTを通すことで、深まったり多角的に捉えたりすることにつながるのである。

(3) 想像する

第三に、映像や画像でイメージの世界に浸ったり、新たな映像や画像からイメージが膨らみ、刺激され、想像をさらに広げたりする姿があった。ICTは客観的な事実を映し出すだけではない。幼児が、イメージ、いわゆる「ごっこ」の世界に浸っている時には、ICTを通した情報も、そのイメージの世界のものともみなしていくことがある。例えば、事例5（京都教育大学附属幼稚園）では、探検ごっこをしている最中にデジタルカメラで撮影した画像に暗い部分があった。この画像をスクリーンに映し出して、クラスの幼児と見てみると、細部まで見えないところがあった。はっきりと見えないことで、「怪しい」という雰囲気が増幅され、この暗闇の先に何かがある（いる）のかもしれないと幼児の想像が広がった。これは、ICTの機能を活かして、虚構と現実の世界を行き来することができる幼児期ならではの経験とも言えるだろう。



(4) 構築する

第四に、ICTによる映像等を通して「こんなものをつくりだしたい、表現したい」という思いが刺激され、デザインしたり、表現したりする姿があった。

例えば、事例10（宮城教育大学附属幼稚園提供）では、モデルごっこをして遊ぶ中で、ファッションショーの映像を見た幼児が、ファッションモデルの歩き方を自分の体を使って表現するなど、「より本物らしく」という思いのもとにショーごっこが展開していった。その中では、「こういう光（照明）を出したい」という幼児の思いを受け、教師と一緒にプログラミングアプリを使って照明の光り方や色を考えたり、モニターもショーに利用して中継したりするなど、より本物らしいショーの世界観を創り上げていった。自発的な活動である遊びの中で、自分たちの頭の中に思い描いたようなイメージを、使えるものをすべて使って実現する幼児の姿は、ICTを用いて具現化し構築する経験である。



このように、幼児が「こうしたい」「これが知りたい」という思いや興味・関心に沿ってICTを活用することで、幼児の心が動いたり、対象の見え方が変わり認識が深まったり、イメージが広がったり、思い描いたことを具現化したりすることが可能になる。つまり、幼児と人・もの・こととの出会いの姿をふまえて、教師が意図や願いをもってICTを活用することで、幼児と人・もの・こととの出会い直し（捉え直し）が図られ、経験が深まっていくのである。

3. 幼児の遊びや生活を豊かにするために

事例の「教師の願い」「ICT の環境」「考察」「事例の要点」の記述から、ICT を使用する際に大切にしたいこととして、以下の7点が挙げられる。

1 幼児の思いや興味・関心を捉えて、幼児と ICT をつなぐ援助をすること

幼児の興味・関心や思いといった文脈に沿った情報によって、幼児の心は動かされる。そのため、教師は、ICT を通した情報をただ単に与えるのではなく、幼児の興味・関心や思いを捉えて、ICT を使用する環境を考へることが重要である。さらに、ICT を使用した後も、幼児が ICT を通して何を受け取り、何に心が動き、何を実現したいと思っているのかを教師が見取り、それらと結びつけた幼児への願いや遊びの展開への見通しなどを考慮して環境の構成・再構成をしていくことも欠かせない。例えば、事例4（福島大学附属幼稚園提供）のように、ひとつの動画を幼児が複数人で見たとしても、心が動く情報（興味のもちどころ）は幼児一人ひとり様々である。教師が各々の幼児の心の動きを読み取り、それぞれに応じた適切な教材や場を改めて用意していくことで、遊びが広がり充実していくのである。

2 幼児の思いや興味・関心を醸成する ICT の使用を考へること

保育においては、幼児の思いや興味・関心があつて、それを実現していくことや、より深く理解していくことを目的として ICT を活用することが肝要であると考えられる。つまり、ICT を通して幼児が情報を知ったり操作したりすること自体を目的としてはならないのである。そのためには、幼児が自分なりに図鑑で調べてもわからない、教師に聞いてもわからない、といった経験を重ね、「より知りたくなる」といった意欲が高まる状況が必要であろう。また、例えば、事例12（京都教育大学附属幼稚園）では、担任と専門家の間で幼児の思いや育ってほしいことなどを綿密に打ち合わせた上で、幼児の心に響くような共感的な言葉かけをするといった、幼児の人・もの・ことへの思いを醸成するような配慮が必要となる。

3 実物と ICT を通した情報との往還ができる環境をつくること

ICT を通した情報だけでなく、幼児が実物を見たり触れたりすることで確かめられるような環境構成や援助は、直接体験を重視する幼児教育には欠かせない場づくりである。例えば、事例12（京都教育大学附属幼稚園）のように、カメの生態を知るために、オンライン交流で専門家とやりとりをする際でも、近くにカメがいて、幼児がすぐにカメを見たり触れたりできるという環境や、事例7（鳴門教育大学附属幼稚園提供）のように、インターネットで得た天気予報の情報を、肉眼で見える眉山付近の空や雲の様子を実際に見ることで確かめられることを知らせる援助などである。ICT を通した情報は、実体のない情報である。そのような情報に幼児が触れたとき、それだけで終わらず、実体のあるものともう一度出会うことを支え、幼児が自分の体を通した五感を使って実感していけるようにすることが重要である。

4 教師自身が遊び心をもって ICT 教材研究をすること

教師自身も臆さずに、遊び心を持ちながら保育教材として ICT を試してみることも大切であろう。どのような教材であろうとも、教師が楽しんで使っているものは、幼児の関心をひき、遊びに取り入れられることが多い。教師自身が、幼児の遊びにどのように活用できるだろうかと想像しながら、色々に試してみることを心がけたい。

また、教師自身が活用する ICT の機能を知っておく必要がある。幼児がどのように ICT を活用して遊ぶのかを予想し、その遊びが広がるよう、その他の教材も取り入れた環境を作り出す必要がある。幼児が興味をもった時にいつでも触れられる環境とすることも重要であるが、それと同時に、大切に扱おうとする意識を高めることも重要である。

5 幼児の発達に応じて、情報を読み解く力を育むこと

幼児が知りたいと思った情報を、ICT を使って検索し、その情報をそのまま鵜呑みにするのは、幼児の経験が深まったとは言えない。幼児は、受け取った情報が、本当にそうなのかと、実際に自分の体や感覚を通して試したり、確かめたりすることが大切である。前述の事例8（鳴門教育大学附属幼稚園提供）を見ると、天気予報で得た情報を、実際に肉眼で見える空の様子や肌で感じる空気の感触などでも確かめるという往還を繰り返す中で、生きた情報として幼児の腑に落ちていくことがわかる。

一方では、検索した情報通りにしてもうまくいかない経験をすることもあるだろう。そういった場合にも、うまくいかないまま終わらずに、何が原因だったのかを考えたり、自分一人では思いつかない、身近な他者（友達、教師など）の考えにも触れて取り入れながら多様な情報があることに気付いたりする経験も重要である。

このような経験は、様々な情報を、鵜呑みにするのではなく、多角的に精査するメディア・リテラシーの素地といえるものではないだろうか。この情報を読み解く力には発達段階による違いもあるだろう。事例3（滋賀大学教育学部附属幼稚園提供）からは、実物と離れた ICT からの情報は、3歳児には理解することが難しいことが読み取れる。ICT の活用には発達段階に十分留意し、それぞれの段階に応じた活用の工夫や判断が必要となる。

6 ICT 機器は共同使用を基本にすること

幼児教育は、集団生活の場であり、教師や友達とのかかわりなど、様々な人とのかかわりの中で互いに影響を与え合いながら多様な学びを経験していく。例えば、事例1（島根大学教育学部附属幼稚園提供）のように、デジタル顕微鏡を見る際、数人で一つの画面を見ている。同じ画面を見ている、幼児それぞれが着目するところ、気付くところは様々であり、幼児がその気づきをつぶやくと、他の幼児は、自分とは違う気づきに、驚いたり不思議に思ったりする。また、画面から視線を上げ、同じものを見ていた友達と視線を合わせることもある。このような姿は、一人で画面を見つめるだけでは得られない、多様な気づきや思いを共有し交流する姿である。この幼児同士の多様な気づきや思いの交流は、「もっと知りたい」という意欲を高め、身の回りの人・もの・ことへの興味・関心の広がり・深まりにつながる重要な要素である。そのように考えると、気づきや思いを共有できるような活用の在り方が望まれる。ICT の特徴的な機能を介してのかかわり（web 会議アプリや仮想現実空間など）もあるが、幼児期には ICT 機器を使っている、隣にいる友達や教師に喜びや感動を伝える、一緒に感動する、面白がる、試すなどの直接的な体験やその場の空気感などを大事にしたい。今、直接体験を大事にすることが、後の小学校以上の教育での学習場面においても自分事として考えたり、理解したりする姿につながっていくのではないかと考える。

7 個に応じた活用の在り方を探ること

幼児期には、集団生活で ICT を活用することが基本ではあるが、一方で、幼児の特性に合わせて、ICT を活用する可能性も見えてきた。例えば事例9（香川大学教育学部附属幼稚園提供）では、園生活に不安をもつ幼児が安心して過ごせるように ICT を活用している。「コオロギを捕まえない」思いに教師が寄り添い、また知的好奇心が高いという良さを活かせるように、図鑑や本で調べてもわからないコオロギを捕まえる「罨」について、機を逃さずに ICT を用いて調べることで、意欲をもって遊ぶ姿につながっている。そして、知識を得ることにとどまらず、実際に「罨」をつくって色々に試していく過程で、幼児の意欲がさらに高まり、個の経験が深まっていく姿が見られる。

また、ひとりの幼児が自信をもって何かをやりとげる姿は、周りの幼児をひきつけ、個の興味が集団の興味へと広がっていく。

普段の保育同様に、幼児の一人ひとりの思いの実現や充実感を大切にしながら、個に応じて柔軟に ICT を活用できるという可能性も見いだせる。

	幼稚園名	学年	タイトル	場面	機器	機能	二次元 バーコード
1	北海道教育大学 附属旭川幼稚園	5	かっこいいのを つくりたい！	構成遊び	タブレット端末	見えない ものをみる	
2	北海道教育大学 附属函館幼稚園	5	プログラミング ロボットで あそぼう	構成遊び	タブレット端末 AI (人工知能) ロボット	つくり出す	
3	弘前大学 教育学部 附属幼稚園	3	さかなに海を 作ってあげよう	クラスの 集い	タブレット端末 実物投影機 モニター	見えない ものをみる	
4	岩手大学 教育学部 附属幼稚園	5	自分って 大切なんだなー	行事	パソコン テレビ	見えない ものをみる	
5	宮城教育大学 附属幼稚園	5	モデルごっこ ～ファッション ショーがしたい～	表現遊び	タブレット端末 アプリ	つくり出す	
6	秋田大学 教育文化学部 附属幼稚園	全	お家の人に ダンスを 見てもらおう	クラスの 集い	タブレット端末 デジタルカメラ	表現する	
7	山形大学 附属幼稚園	5	小学校って どんなところかな	交流	パソコン モニター	やりとり する	
8	福島大学 附属幼稚園	4	このダンス、 なんか違うんだよね	表現遊び	タブレット端末 モニター	見えない ものをみる	
9	茨城大学 教育学部 附属幼稚園	5	本物みたいに やってみたい！	表現遊び	タブレット端末 モニター	表現する	
10	宇都宮大学 共同教育学部 附属幼稚園	5	全国大会が 始まるよ	表現遊び	タブレット端末 モニター	表現する	
11	群馬大学 共同教育学部 附属幼稚園	4	明日もやる！	植物	タブレット端末 モニター	見えない ものをみる	
12	埼玉大学 教育学部 附属幼稚園	5	おいもしんぶん	表現遊び	デジタルカメラ 実物投影機 プロジェクター モニター	表現する	

13	千葉大学 教育学部 附属幼稚園	5	スタジオムーンに 来てください	表現遊び	デジタルカメラ	表現する	
14	東京学芸大学 附属幼稚園	5	ペンギンから 手紙が届いたよ！	表現遊び	タブレット端末 アプリ 音響機器	見えない ものをみる	
15	お茶の水女子大学 附属幼稚園	5	見つけた虫を 見たい・見せたい！	生き物	デジタル顕微鏡	見えない ものをみる	
16	山梨大学 教育学部 附属幼稚園	5	もっと細かく 伝えたい	クラスの 集い	タブレット端末 モニター	見えない ものをみる	
17	新潟大学 附属幼稚園	5	花火大会を したいな！！	表現遊び	タブレット端末 モニター	表現する	
18	富山大学 教育学部 附属幼稚園	5	サマーチャレンジに レッツゴー！	クラスの 集い	パソコン モニター	見えない ものをみる	
19	金沢大学 人間社会学域 学校教育学類 附属幼稚園	4	ニイニイゼミって どんな風に鳴くの？	生き物	タブレット端末 音響機器	詳しく見る	
20	福井大学 教育学部 附属幼稚園	5	もっと知りたい！ 見つけたい！	生き物	パソコン タブレット端末 モニター	詳しく見る	
21	信州大学 教育学部 附属幼稚園	5	本当の名前が 分かったよ！	生き物	パソコン	詳しく見る	
22	上越教育大学 附属幼稚園	5	「あれ」なら、 外でも使えるよ！	表現遊び	タブレット端末	表現する	
23	静岡大学 教育学部 附属幼稚園	5	教えて おはなやさん	行事	タブレット端末 モニター	やりとり する	
24	愛知教育大学 附属幼稚園	5	どうやって できるの？	生き物	タブレット端末 プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
25	三重大学 教育学部 附属幼稚園	5	友達と一緒に 影をつくりたい！	表現遊び	実物投影機 プロジェクター モニター	見えない ものをみる	

26	滋賀大学 教育学部 附属幼稚園	3	ヒマワリ見たい	植物	パソコン デジタルカメラ モニター	見えない ものをみる	
27	京都教育大学 附属幼稚園	4	なんだか“怪しい”	表現遊び	タブレット端末 デジタルカメラ プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
	京都教育大学 附属幼稚園	5	卵にカビあるけど 大丈夫？	交流	パソコン プロジェクター モニター	やりとり する	
28	大阪教育大学 附属幼稚園	4	あ〜、映った。 小学校の先生や	交流	パソコン アプリ	やりとり する	
29	兵庫教育大学 附属幼稚園	5	カエルかわいい！！	生き物	タブレット端末 モニター	見えない ものをみる	
30	神戸大学 附属幼稚園	4	ヒーローごっこ、 楽しいな！ めっちゃ 頑張ってる！	表現遊び	タブレット端末 音響機器	見えない ものをみる	
31	奈良教育大学 附属幼稚園	3	この丸いのも 撮っというて	生き物	タブレット端末 プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
32	奈良女子大学 附属幼稚園	4	わたしたちの 「ぺんぎんらんど」	表現遊び	パソコン タブレット端末 モニター 音響機器	見えない ものをみる	
33	鳥取大学 附属幼稚園	3	夏休みに こんなことあったよ	クラスの 集い	タブレット端末 プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
34	島根大学 教育学部 附属幼稚園	5	ここは クワガタ研究所	生き物	デジタル顕微鏡	見えない ものをみる	
35	岡山大学 教育学部 附属幼稚園	5	おつきみ団子をつくろう	生活	タブレット端末 モニター	見えない ものをみる	
36	広島大学 附属幼稚園	5	カレーの材料を 買いに行こう！	生活	デジタルカメラ	見えない ものをみる	

37	広島大学附属 三原幼稚園	5	日本一怖い おばけ屋敷 作りたい！	表現遊び	タブレット端末 プロジェクター モニター 音響機器	表現する	
38	山口大学 教育学部 附属幼稚園	4	見つけたことを 知らせたいな！	植物	タブレット端末	見えない ものをみる	
39	鳴門教育大学 附属幼稚園	5	プールに 行きたい！	生活	テレビ	詳しく見る	
40	香川大学 教育学部 附属幼稚園	5	コオロギを 捕まえるために	生き物	パソコン	詳しく見る	
41	愛媛大学 教育学部 附属幼稚園	4	セミ捕りに出発だ！	生き物	タブレット端末	詳しく見る	
42	高知大学 教育学部 附属幼稚園	4	コオロギのことを 知りたい	生き物	パソコン タブレット端末 プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
43	福岡教育大学 附属幼稚園	5	身近に 憧れる人が いっぱい！	交流	パソコン プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
44	佐賀大学 教育学部 附属幼稚園	3	何色になるのかな	その他の 遊び	デジタルカメラ	見えない ものをみる	
45	長崎大学 教育学部 附属幼稚園	5	この抜け殻は なんで黒いの？	生き物	パソコン プロジェクター モニター	見えない ものをみる	
46	熊本大学 教育学部 附属幼稚園	5	一緒にみんなで つくりたい	クラスの 集い	タブレット端末 デジタルカメラ モニター	やりとり する	
47	大分大学 教育学部 附属幼稚園	3	長くつなげよう	構成遊び	デジタルカメラ	見えない ものをみる	
48	宮崎大学 教育学部 附属幼稚園	3	まねして やってみたよ	クラスの 集い	タブレット端末	見えない ものをみる	
49	鹿児島大学 教育学部 附属幼稚園	4	クワの実ジャムが つくりたい	植物	タブレット端末	詳しく見る	

研究実行委員

天 野 知 幸	京都教育大学附属幼稚園	園長
樋 山 ゆかり	京都教育大学附属幼稚園	副園長
高 野 史 朗	京都教育大学附属幼稚園	教諭
山 際 美 喜	京都教育大学附属幼稚園	教諭
壇 律 子	京都教育大学附属幼稚園	教諭
濱 田 理 恵	京都教育大学附属幼稚園	教諭
北 山 千嘉子	京都教育大学附属幼稚園	養護教諭
久 保 裕	京都教育大学附属幼稚園	教諭
西 村 佳 子	滋賀大学教育学部附属幼稚園	副園長
小 池 美 里	大阪教育大学附属幼稚園	副園長
磯 野 久美子	兵庫教育大学附属幼稚園	副園長
田 中 孝 尚	神戸大学附属幼稚園	副園長
長谷川 かおり	奈良教育大学附属幼稚園	副園長
柿 元 みはる	奈良女子大学附属幼稚園	副園長

研究協力者

秋 田 喜代美	学習院大学 文学部 教授
無 藤 隆	白梅学園大学 名誉教授
神 長 美津子	大阪総合保育大学 特任教授
北 野 幸 子	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授
松 山 由美子	大阪総合保育大学 児童保育学科 教授
平 井 恭 子	京都教育大学 幼児教育科 教授
古 賀 松 香	京都教育大学 幼児教育科 教授
佐 川 早季子	京都教育大学 幼児教育科 准教授
東 村 知 子	京都教育大学 幼児教育科 准教授
田 爪 宏 二	京都教育大学 教育学科 教授

下記の検索キーワードで関連する事例の検索も可能です

【ICT 活用場面】

# 表現遊び（ごっこ・イメージなど）	# 交流（幼小連携・地域など）
# 生き物	# クラスの集い（遊びの振り返りなど）
# 植物	# 行事（誕生会・保健指導など）
# 構成遊び	# 生活（食育活動など）
# その他の遊び	

【ICT 機器】

# パソコン	# デジタルカメラ
# 実物投影機（書画カメラ）	# プロジェクター
# デジタル顕微鏡	# テレビ
# タブレット端末	# AI(人工知能) ロボット
# アプリ（WEB 会議アプリ・ビデオ通話アプリ・プログラミングアプリ・イラスト作成アプリなど）	
# モニター（スクリーン・電子黒板・モニターとして使用するテレビなど）	
# その他の遊び	

謝 辞

技術革新により情報化の波は、学校教育現場はもちろんのこと家庭のなかにも押し寄せています。コロナ禍を経験したことで、私たちは ICT の効果を実感しましたが、依然として情報化社会における幼児教育の未来の姿を見通すことは難しいままです。それゆえ、保育における ICT 活用の事例収集と考察を行いました本研究が、研究の更なる一助となり、日々保育に携わっていらっしゃる現場の先生方のご参考になれば何よりと思っております。

本報告書完成に至るまでには、多くの先生方からのご教示、ご支援がございました。最後になりましたが、ご助言を頂きました学習院大学教授秋田喜代美先生、白梅学園大学名誉教授無藤隆先生、大阪総合保育大学特任教授神長美津子先生、神戸大学大学院教授北野幸子先生、大阪総合保育大学教授松山由美子先生に深く感謝申し上げます。また、貴重な事例をお寄せ、ご協力くださいました全国の国立大学法人附属幼稚園 48 園の先生方、ご指導くださいました学内外の研究実行委員、研究協力者の先生方に深謝申し上げます。皆様方のご指導、ご支援なくしては、本研究を完遂することはできませんでした。全ての皆様方に深く感謝申し上げます。

京都教育大学附属幼稚園 園長 天野知幸

本報告書は、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として京都教育大学が実施した、令和4年度幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業の成果を取りまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

令和4年度 文部科学省委託「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」
幼児教育施設における指導の在り方等に関する調査研究

幼児の遊びや生活を豊かにする ICT 活用に関する研究

発行日：令和5年3月31日

国立大学法人 京都教育大学附属幼稚園 〒612-0071 京都府京都市伏見区桃山井伊掃部東町16

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会